

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 5 月 24 日	
所属部局・職	霊長類研究所社会生態分科・博士後期課程学生
氏名	石塚真太郎

<p><b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)</p> <p>香川県小豆島</p>
<p><b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)</p> <p>小豆島のニホンザルにおけるオスの繁殖戦略についての調査</p>
<p><b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)</p> <p>平成 30 年 5 月 20 日 ~ 平成 30 年 5 月 24 日 (5 日間)</p>
<p><b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)</p> <p>銚子溪 自然動物園 お猿の国</p>
<p><b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)</p> <p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の調査の一番の目的は識別個体および新生個体の確認であった。オトナのオスについては、全個体確認できた。一方でオトナのメスについては数頭確認できなかった。特に昨冬交尾を観察し、前回の調査で出産まで確認していた母子が消えていたのは研究上大きな打撃となった。この理由としては、何らかの理由で母親が死亡した、昨冬から頻発しているメスの群離脱などが考えられる。数は減ってしまったが、昨冬交尾を観察した残りの個体識別メスの子の父性を分析することにより、順位の異なるオスの交尾努力が繁殖成功に結びついているかを明らかにしたい。</p> <p>これらに加え、種子散布についての共同研究用の糞採取や、新たなカメラトラップの設置を行った。これらの結果が出るのはもう少し先の予定だが、これからも幅広いアプローチで小豆島の動物のことを明らかにしていきたい。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>新生児と母親</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>私に懐く第一位オス</p> </div> </div>

**6. その他** (特記事項など)

本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラム、銚子溪自然動物園お猿の国の皆様に感謝申し上げます。